



Action!

連合岩手「震災復興&クラシノソコアゲ 地域フォーラムin岩手三陸」!!

去る2017年4月15日(土) 13時30分～ 大船渡市「リアスホール」マルチスペースにて、主催 連合岩手、後援では岩手県・大船渡市・(一社)岩手県経営者協会・岩手県商工会議所連合会・岩手県商工会連合会・岩手県中小企業団体中央会・岩手県社会福祉協議会・他14報道機関で震災復興&クラシノソコアゲ『地域フォーラムin岩手三陸』と題して基調講演及びパネルディスカッションを約170名岩手県内から参加のもと開催!

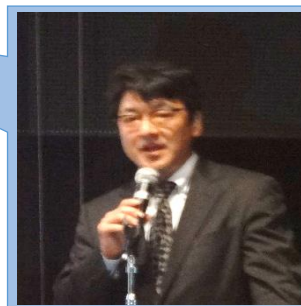
冒頭では連合岩手齋藤健市会長から連合岩手として初めての試み、今後継続していくと挨拶があり、次に連合本部総合組織局 山根木晴久総合局長、大船渡市 戸田公明市長と続いた。

基調講演では「復興の『壁』を超えるために～産業と雇用の再生取り組み事例から～」と題し講師を「杭田俊之氏(岩手大学人文社会科学部准教授)から釜石の水産加工会社の調査事例を取り上げ、地域と「クラシ」の多様性(クラシノソコアゲに向けて「3つの壁」)・現状の水産加工場の人手不足の問題・「クラシ」のひろがり(現地ハローワークを中心とした雇用問題情報交換会、地域社会のありようを考える)・「ソコアゲ」のために『現状把握の壁』、『人づくりの壁』、『つながりの壁』を超えるためにについて約1時間講演をいただいた。

異なる立場、異なる分野の「つながり」づくりでは、「かわりづくり」を意識した「ひとづくり」それをきっかけに「関係づくり」。若者への働きかけに傾きがちだが、働きかけ側にこそ「ひとづくり」という意味で変わらなければならない(大人の責任、むしろ相互性が大切)。地域社会の「クラシ」に関わる全ての「市民」かわりの中で変わる(可能性)・社会的包括(ソーシャル・インクルージョン)の趣旨で、自助・共助・公助を考えたい。そのために、「クラシ」という発想での様々な事業組織の連携の場づくりが課題。「壁」を超える取り組みは運動論であるが、それぞれの組織の運動論ではなく、「クラシ」目線の運動論を行う必要性がある。



クラシノソコアゲにはそれぞれの組織の運動論ではなく
「クラシ」
目線の運動論を行うべき!



講師の杭田准教授 ←

地域づくり・地域取り組み、防災、産業振興、雇用環境整備、家族、教育、医療、福祉分野、など本来一体で関与していた!



向かって左側写真は連合岩手齋藤会長 中央写真は連合本部山根木総合局長 右側写真は
大船渡市戸田市長

パネルディスカッション

第2部として、15時10分～パネルディスカッションでは、テーマ「私たちの考える震災復興とクラシノソコアゲ」について、杭田准教授がコーディネーターを務め、5名のパネラーが各10分程度でパワーポイントを使い、専門分野からの立場で取り組みや課題などについて報告をし、討論へと入った。



(3) 第3期復興実施計画の概要

復興計画の最後の実施計画となる第3期復興実施計画を、平成29年3月末に策定。

①取組方向

交流を力に、多様な主体の連携と県民みんなの参画により、被災者一人ひとりの復興を成し遂げ、より良い復興につなげる「三陸復興・創造」

②取組の柱

3つの原則に基づく取組 + 三陸創造プロジェクト

「安全」の確保	① 防災のまちづくり ② 交通ネットワーク ③ 生活・雇用 ④ 医療・福祉
「暮らし」の再建	⑤ 教育・文化 ⑥ 地域コミュニティ ⑦ 市町村行政機能
「なりわい」の再生	⑧ 水産業・農林業 ⑨ 商工業 ⑩ 観光

東日本大震災以降により甚大な被害を受けた三陸地域の早期の復興、復興はもとより、長期的な視点に立ち、多くの人々を巻きつけ、多様な人材を育む地域として、令和はかつて持続可能な新しい三陸地域の創造を目指す。

- ① 三陸復興プロジェクト
- ② 新たな交流による地域づくりプロジェクト
- ③ 東日本大震災津波被害者まきわらプロジェクト
- ④ きんぴらエコファン産産プロジェクト
- ⑤ 三陸復興交流圏形成プロジェクト



岩手県復興局 復興推進課 総括課長
熊谷 正則 さんから岩手県の立場で報告！

■地域密着型経営

1. 「出来る限り儲けなさい。出来る限りためなさい。そして、出来る限り与えなさい」
2. 寄付行為(特にもお祭りや子供行事)
3. メセナ活動
マイヤ書道展・児童画展・親子ふれあいの旅
海外ホームステイ支援etc.



株式会社マイヤ 代表取締役社長
米谷 春夫さんから経営者の立場で報告！

相談から見えること②

相談者からみる3つの「無縁」

●家族との無縁

困った時に相談できる援助してくれる家族がいない。関係が断たれている。

●地域との無縁

困った時に相談できる援助できる友達や知人がいない。

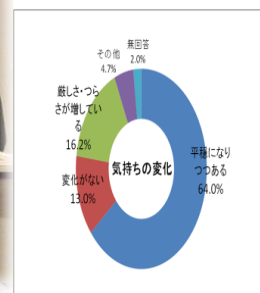
●制度との無縁

制度を知らない。使い方を知らない・理解できない。アクセスしただけ…。



宮古市社会福祉協議会「くらしねっとみやこ相談室」
有原 領一さんからくらし相談の立場から報告！

心の回復と生活再建



震災直後と比べて「厳しさが増えている」=16.2%

このうち、「生活資金」や「仕事」に問題を抱えている人が目立つ
↓
心の回復は生活再建の問題と非常に密接
一人一人に対する総合的なサポートの必要性



岩手日報社 報道部記者
金野 順子さんからアンケート調査を実施した結果をもとに報道の立場から報告！

13 東日本大震災に係る政策課題 (2017年度 最重点政策)

1. 復興財源の確保および被災自治体への継続的支援
震災からの復興・再生をわが国の最重要課題に位置づけ、被災自治体の財政状況にきめ細かく配慮するなど、国の強力なバックアップと取り組みの加速化を行う。
2. 雇用創出事業への支援措置の継続と雇用のミスマッチ解消に向けた就職支援強化
事業復興型雇用創出事業による雇用支援や職業訓練メニューの充実、きめ細やかな就職支援等を通じ、雇用のミスマッチを解消し、地域を担う産業を再生する。
3. 災害公営住宅の整備の加速と個別事情に応じた移転促進策の拡充、独居高齢者の「見守り活動」への支援強化
被災者の生活の安定のため、災害公営住宅の整備を加速化するとともに、きめ細やかな対応を行い、恒久住宅への移転を促進する。また、仮設や恒久住宅における高齢者の孤立を防ぐため、見守り活動への支援を強化する。
4. 養護教諭やスクールカウンセラーの配置拡充
被災した子どもたちの心のケア、教職員や保護者への助言などの課題に対応するため、各学校における相談室や専用電話の設置、教諭教諭の複数配置やスクールカウンセラーの配置拡充・常勤化等による対応体制を拡充し、保護者と子どもとを包括的にケアできる体制を整備する。



連合総合組織局 総合局長
山根木 晴久さんから労働界の立場で報告！

「地域とのかかわり」・「多業種と関連団体そして市町村のつながり」・「多様な交流でひとつづくり」が「震災復興・クラシノソコアゲ」へのカギとなる。!



労働三団体・2017春季生活闘争 「宮古地区情報交換集会を開催！」

2017年4月20日(木) 18時30分から 宮古市シーアリーナ 管理棟3階大会議室において、「労働三団体・2017春季生活闘争」宮古地区情報交換会集会を開催した。

2017春季生活闘争では先行組合と言われる、大企業の組合がベアーの伸び悩みの中で、中小企業の組合でのベアー回答が大企業を上回り前年とは違った春闘の風が吹いており、全体の妥結額・妥結率ともに前期比マイナスではあるが、中小での伸び率は昨年を上回った。

そのような背景で、宮古地区は中小・地場企業組合が大半を占め、これからが本格的な交渉へと入る組合も少なくない中で、支部組合・地域組合の取り組みなどの情報交換を行う中で、今後の交渉へつなげるため、労働三団体での集会とした。

また、今注視しなければならないこととして、「働き方改革実現会議」の行方が気になるところでもあることから、連合岩手 副事務局長・労働局担当の原利光さんを招き、情勢報告と労働法改正についての動きなどを講演して頂いた。



開会に先駆け、去る4月11日に亡くなられた、北村 進氏(宮古市議・岩教組組織内議員)に哀悼の意を表し黙祷を行った。

生前、労働運動をはじめとして、議員活動で活躍をされておりましたことに敬意を表したいと思います。ご冥福をお祈りいたします。



慈苑労組の横田 委員長より ←

- ・特別養護老人施設の仕事をやっている。
- ・賃金体系については人事院勧告に合わせた体系となっている。
- ・現在の職場では、人材不足により大変な環境となっている。
- ・人材不足の原因としては仕事の割には賃金が安く、大変苦勞している。
- ・介護報酬引き下げの影響が大きな問題となって、将来不安となっている。
- ・今後介護報酬の引き上げに関して皆さんからのご理解とご協力を頂ければ心強い。
- ・皆さんと共に活動していきたい。



J R 東労組の 東館書記長より ←

- ・3月3日で30周年を迎えた。
- ・今春闘では、ベアー実施のためのスト権を確立。
- ・職責によるベアーのあり方は格差を生むことから、平等にベアーを行うべきとした。
- ・要求は6,000円の要求
- ・特に若い組合員には格差について集会等で説明してきた。
- ・30年間で会社の利益は過去最高となっている。
- ・交渉結果としては、1,000円ベアー、定昇係数4、55歳以上にもベアー実施、グリーンスタッフには基本給に500円の加算、その他条件等についても一部勝ちとることができた。



J P 労組宮古支 部伊藤書記長より ←

- ・私どもの組合は全国組織
- ・2017春闘の家族を含めた署名活動を行っている。
- ・組合員への対話集会等を実施している。
- ・交渉結果としては、ベアーゼロとなったが、定昇の完全実施パートナー組合員とともにこの春闘を闘ってきた。
- ・会社の状況は、マイナス金利で、大きく影響を受けた。
- ・有期雇用を無期雇用へと前倒しで実施することとなった。
- ・賃金では取れなかったものの労働条件での改善を図った。
- ・以上が今春闘の報告である。



東北電労宮古支 部朝倉執行委員より ←

- ・要求書提出 2月21日
- ・妥結 3月16日
- ・今までとこれからの貢献をどの様に賃金へ反映していくかを労使で話し合った。
- ・電気の全面小売化・国の料金審査制など注視しつつ、競争環境下で地域のお客様の信頼なども議論。
- ・事業リスクについて議論を交わしてきた。
- ・結果、要求は3,000円の賃金体系だが今回行わないこととなった。
- ・一時金については、年間4.07ヶ月の要求に対し、3.6ヶ月となった。



**安心して働ける職場!
安定して暮らせる賃金を勝ち取るため!
2017春闘!
団結してガンバロー!**